

社会福祉法人 中部盲導犬協会

令和 2 年度 事業報告書

〔概 要〕

「中部盲導犬協会の発展と永続のために……」を目標に、事業展開した。

盲導犬育成事業部

〔基本事業〕

1. 盲導犬の育成強化 ……別紙 1
愛知県等の助成により、盲導犬 4 頭を育成貸与した。
2. 飼育費の支給
月額 4,900 円を上限として当協会から貸与している愛知県、名古屋市内の盲導犬使用者に対し補助した。
3. 盲導犬訓練士等の養成
実習生 3 名を採用し、盲導犬訓練士資格に向けて教育した。
4. 盲導犬に適する繁殖と子犬の作出の研究事業
繁殖センターの運用を図り、優秀な子犬の育成に努めた。
5. 普及啓発事業 ……別紙 2
＜目標＞
 - ① 視覚障害者および一般市民に対して、身体障害者補助犬である盲導犬の役割を正確に知らせた。
 - ② 一般社団法人中部盲導犬協会支援センターと連携した。
 - 1) 盲導犬のデモンストレーションの実施
視覚障害者団体等に盲導犬貸与についての説明や体験歩行などを実施し、盲導犬貸与の促進を図った。

2) 盲導犬体験

視覚障害者の盲導犬に対する、知識を深めるために1日体験会を実施した。

3) チャリティー

恒例のチャリティーゴルフ大会はコロナのため開催出来なかった。

4) 見学会の開催

個人や団体に対し、盲導犬への正しい理解と接し方などを啓発した。

5) イベント参加

コロナ禍の中、開催されたイベントに参加して、盲導犬の理解を深めると共に動物愛護についての啓発を行なった。

6) 講師派遣

小・中学校、高校などへ出向き、総合学習などの授業を通して盲導犬への理解を深めた。

7) パンフレットの配布

盲導犬事業に対して幅広い市民の理解と協力が得られるように、視覚障害者関係団体や見学者等に配布した。

8) 協会ホームページの活用

インターネットの内容の充実を図り、盲導犬に対する理解と支援の輪を広げた。

SNS を開設した。

9) 機関紙「ニューハーネス」の発行

協会事業の周知と情報開示を図った。

6. 職員研修会の実施

全国盲導犬施設連合会の研修をはじめ障害者関連の施設や盲導犬訓練所など他協会にも派遣し職員の資質向上を図った。

また、日本身体障害者補助犬学会、東海点字研究会に参加する。

7. ボランティアの強化

恒例の高校生サマーボランティアや中学生ボランティア体験は、コロナのため受け入れが出来なかった。

8. 運営基盤の強化安定

1) 盲導犬育成の支援団体の拡大

各法人、団体、組合、学校等からより多くのご支援が得られるよう努めた。

2) 会費会員について

法人・個人に盲導犬育成事業についての理解を深めた。

3) リサイクル活動の促進

・書き損じハガキの回収運動

書き損じハガキを回収して運営資金や通信費として活用した。

・アルミ缶回収

アルミ缶回収運動の輪を広げ、盲導犬育成に役立てた。

〔連携事業〕

1. 一般社団法人中部盲導犬支援センターとの連携強化した。
2. あけびの会との連携
恒例の盲導犬使用者とのハイキング・慰霊祭・研修会等をコロナのため実施できなかった。
3. 豊田東名ライオンズクラブ「中部盲導犬協会後援会」の協賛事業
豊田東名ライオンズクラブを中心とした後援会の協賛事業としての、盲導犬チャリティーゴルフ大会、球技大会での募金活動協力、パピーウォーカーへの子犬の委託などの支援に応えるため、この事業推進に努力した。
4. 全国盲導犬施設連合会との連帯
連合会が実施する事業に、参加し協力した。
5. 愛知視覚障害者援護促進協議会との連携
視覚障害者援護講習会等に講師派遣するとともに共催講習会も実施した。

〔重点事業〕

・岐阜大学との連携

盲導犬の人工授精に関する研究の一環で毎年凍結精液を作成していたが、コロナウィルス感染症により岐阜大学教授の移動規制のため作成出来なかった。

・財政基盤の安定

街頭普及活動を支援センターと連携し、普及啓発活動を実施した。

(名鉄百貨店前、イオンみなと・イオン新茶屋及び尾張地区・三河地区等)

福祉事業部

〔基本事業〕

- ・ 居宅介護（ホームヘルプ）事業

静岡拠点の蒲原事業所を廃止し、浜松事業所を開設した。

……別紙 3

- ・ 特別養護老人ホーム 翠華の里

盲導犬及び家族同様のペット犬と一緒に入居可能な特別養護老人ホームの運営。（新城市湯谷温泉地区・定員 100 名）……別紙 4

以上

盲導犬育成報告

別紙1

頭数	犬名	ハッピー ウォーカー委託中	基本訓練	誘導訓練	訓練終了
1	A			→	愛知県貸与
2	B			→	愛知県貸与
3	C			→	キャリアチェンジ
4	D			→	キャリアチェンジ
5	E			→	キャリアチェンジ
6	F			→	キャリアチェンジ
7	G			→	三重県貸与
8	H			→	愛知県貸与
9	I			→	訓練中
10	J			→	訓練中
11	K			→	訓練中
12	L			→	訓練中
13	M			→	キャリアチェンジ
14	N			→	繁殖犬
15	O		→		キャリアチェンジ
16	P			→	訓練中
17	Q			→	キャリアチェンジ
18	R			→	訓練中
19	S			→	訓練中
20	T			→	訓練中
21	U			→	訓練中
22	V			→	キャリアチェンジ
23	W			→	訓練中
24	X			→	訓練中
25	Y			→	訓練中
26	Z			→	繁殖犬
27	AA			→	訓練中

頭数	犬名	パピー ウォーカー委託中	基本訓練	誘導訓練	訓練終了																		
28	AB			→	訓練中																		
29	AC			→	訓練中																		
30	AD			→	訓練中																		
31	AE			→	訓練中																		
32	AF			→	訓練中																		
33	AG			→	訓練中																		
34	AH			→	訓練中																		
35	AI			→	訓練中																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 35%;">令和3年3月末日 現在保有犬</td> <td style="width: 30%;">盲導犬</td> <td style="width: 35%; text-align: right;">41 頭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>訓練犬</td> <td style="text-align: right;">12 頭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>繁殖犬</td> <td style="text-align: right;">18 頭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PR犬</td> <td style="text-align: right;">4 頭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>パピーウォーカー委託中</td> <td style="text-align: right;">22 頭</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">97 頭</td> </tr> </table>						令和3年3月末日 現在保有犬	盲導犬	41 頭		訓練犬	12 頭		繁殖犬	18 頭		PR犬	4 頭		パピーウォーカー委託中	22 頭	合計		97 頭
令和3年3月末日 現在保有犬	盲導犬	41 頭																					
	訓練犬	12 頭																					
	繁殖犬	18 頭																					
	PR犬	4 頭																					
	パピーウォーカー委託中	22 頭																					
合計		97 頭																					

繁 殖 事 業

1. 交 配

件 数 4 件 (内、2 件不受胎)

2. 出 産

件 数 2 件

産 子 数 15 頭 (内、死産あるいは他協会への分配有り)

3. パピーウォーカー関連

委 託 14 家庭

しつけ教室 15 回開催 (コロナ緊急事態宣言により電話フォローあり)

4. 繁殖犬の引退と導入

- ・繁殖雌犬 2 頭引退
- ・繁殖雄犬 2 頭引退
- ・繁殖雌犬 2 頭導入
- ・繁殖雄犬 0 頭導入
- ・現在、繁殖雄犬 8 頭 (内、AGBN 委託犬 1 頭) と繁殖雌犬 10 頭 (内、AGBN 委託犬 0 頭) で合計 18 頭を所有

5. 凍結精液の作成(岐阜大学との連携)

未実施 (次年度 3 回を予定)

普及啓発事業

事業名	内容・実施数
講師派遣	小・中学校、高校などへ出向き、盲導犬の授業を行う。(60～90分) 盲導犬への正しい理解と街中で出会った際の接し方などを啓発する。 啓発件数 21件 講師料総額 ¥297,520
見学会	4階大ホールにて個人・団体に向けて実施。定員100名。 盲導犬への正しい理解と接し方などを啓発する。 約啓発人数 38名 参加費総額 ¥6,900
イベント	各種イベントやお祭り、ショッピングモール等で、募金活動・チャリティーグッズ販売・デモンストレーション等を実施し、盲導犬の正しい理解を呼びかける。 21件
※支援センターと連帯募金活動	街頭募金活動 (名鉄百貨店前、イオンみなと店、東山公園前、大須商店他) 669回
友の会	*ボランティア育成 133名 新規 19名
会員	特別会員 40名(内、新規会員：7名) 普通会員 257名(内、新規会員：24名)
ボランティア養成	<u>コロナウイルス対策のため全面中止</u> 例年であれば以下の通り実施 あけびの会・学生ボランティア講習会 生活支援連携 高校生夏期サマーボランティア受入 中学生ボランティア体験受入
自動販売機	新規設置：1台 継続設置：43台 計44台
学会・研修会	ジャパンセミナー(オンライン)
機関誌「ニューハーネス」	3,000部(墨字版)×1回(6月、1月発行)、 50部(音声ファイル版)×1回(6月発行、1月発行)

訪問介護事業所 サープ

身体介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R2.4	169	265,5	8
5	168	263,5	8
6	168	264,5	8
7	175	269	8
8	168	264,5	8
9	170	265	8
10	173	264,5	8
11	158	253	8
12	175	265,5	8
R3.1	158	251,5	8
2	153	247	8
3	169	260,5	8
年度計	2004	3134	96

重度訪問介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R2.4	143	270	6
5	149	289	6
6	153	314,5	7
7	158	365,5	8
8	152	311	6
9	148	328	6
10	159	378,5	7
11	146	344	8
12	154	340	7
R3.1	149	308	7
2	135	276,5	5
3	158	319,5	6
年度計	1804	3844,5	79

移動支援

R1.4	3	3	2
5	4	4	2
6	1	1	1
7	1	1	1
8	1	1	1
9	1	1	1
10	1	1	1
11	1	1	1
12	1	1	1
R3.1	1	1	1
2	1	1	1
3	1	1	1
年度計	17	17	14

※職員 専従 6名 (介護福祉士)
非専従 2名 (介護福祉士・介護職員初任者研修修了者)

※利用状況
契約者 11名 (居宅介護・重度訪問介護10名)
(移動支1名)
男性7名
女性4名

※障害支援区分
区分4 1名
区分5 1名
区分6 9名

※ 障害福祉サービスより介護保険に移行した利用者が1名
障害・介護保険併用中
介護保険認定区分は4・男性利用者

訪問介護事業所 サファイア

- ・「訪問介護事業所 サファイア」
静岡県浜松市浜北区内野 1655 プラセール A101 号室
令和 3 年 3 月 1 日開業

- ① 障害者総合支援法 (居宅介護・重度訪問介護)
指定事業所番号 2217272489
- ② 介護保険法 (訪問介護)
指定事業者番号 2277205791
- ③ 職員 専従 2 名 (介護福祉士) ※管理者・サービス提供責任者
非専従 1 名 (介護福祉士)

特別養護老人ホーム翠華の里

高齢化した際に盲導犬及び家族同様のペット犬と一緒に入居可能な特別養護老人ホームの運営。(新城市湯谷温泉地区・ユニット型・定員 100 名)

1. 事業所名 特別養護老人ホーム翠華の里
2. 場所 新城市豊岡字田ノ島 52 番 9
3. 指定年月日 平成 31 年 3 月 29 日 (事業開始 4 月 1 日)
4. 指定期間 東三河広域連合
5. 対象者
 - ・ 要介護 3 以上の認定を受けた要介護者
 - ・ 要介護 1 及び 2 の認定を受け、かつ保険者等が特例(独居・認知症など)入居を認めた要介護者

6. 従事者

職種	R2. 4. 1		採用		退職		R3. 3. 31	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1						1	
生活相談員	1						1	
介護支援専門員	1			1			1	1
介護職員	37	9	7	14	5	11	39	12
看護師	2	5	1	1	2		1	6
機能訓練指導員	1						1	
管理栄養士	1		1		1		1	
事務員	1						1	
業務員		3		1				4
業務員 (宿直)		3		2		2		3
家事支援員		4				1		3
合計	45	24	9	19	8	14	46	29
	69		28		22		75	

※R3. 3. 31 在職者数は 3. 31 付で退職及び 4. 1 付で異動予定の職員は含まない。

7. 施設理念

人を愛し
地に感謝し
天に祈る

8. 施設行動指針

明るい笑顔で交わす挨拶
来た道 行く道 すべてが大切な人生
ルール守って楽しい毎日
地域と共栄 翠華の里

9. 事業内容

(1) ケア全般

施設の健全な環境継続に努め、利用者の人間性を尊重し明るく楽しい施設にする
と共に、個別ニーズを把握し、より質の高い介護サービスの提供を図った。

ユニットケアの効果的な実践のため、ハードの意味をしっかりと理解し、ソフト
面においても、ユニットの固定配置の必要性と継続を常に意識し、なじみの関係を
構築した。

また、多職種連携を根本に携えたケアを展開した。

(2) 生活相談

利用者の生活歴や心身状況を適切に把握し、認知症等で訴えが困難な利用者の課
題についても迅速に対応できるよう努めた。

個別的な声かけの工夫に努め、言葉だけでなく常に笑顔で優しい応対をし、心に
響くコミュニケーションがとれるよう援助した。

また、職員からの援助のみならず、利用者間の相互援助を踏まえた対応に努め、
居心地のいい環境で生活できるようサポートした。また、家庭的な雰囲気のもと、
生活の継続性を意識した支援を心がけた。

家族とのつながりを大切にした支援に努めた。

生活相談は入居から退居に至る過程すべてのトータルマネジメントであるとい
う認識のもと、本人を核とし、施設における利用者の生活全般及び、本人を取り巻
く家族の精神面等を支援した。

(3) 連絡調整

各スタッフの価値観をすり合わせながら、多職種連携を円滑に行い、利用者の状
態変化については、それに至る経過も含め迅速に家族等に報告した上で、対応を適
切に行えるよう努めた。また、利用者や家族が今後の生活を円滑に進めることが出
来るよう、医療機関等と連携のもと、予見も含めた上で必要な対応策や情報の提示
を行い、選択、決定時のサポートに努めた。

また、その都度、迅速に対応の可否等を判断、明示ができるスキルを培い、思い

込みと先入観を捨て、再三の意思確認対応に努め、緊急時及び終末期の意向書の定期確認等を行った。

入居後も、面会にとどまらず、あらゆる面で関わりを持ってもらうことで精神的なつながりが継続され、利用者と家族がともに豊かに生き続けることができるよう支援した。

(4) ケアマネジメント

利用者の心身機能維持向上に向け、計画を立案し実施経過の確認に努めた。

ユニットケアを実践する上で、利用者の希望する生活の予定である“24時間シート”と必要な部分はリンクさせ、双方を効果的に実践できるように支援した。

多職種連携のもと、必要に応じてプラン変更を行い実践することで、利用者の自律性の向上につなげた。

(5) リスクマネジメント

自立支援や危険の予見、回避対策等を常に念頭に置き、利用者の支援に努めた。

またリスクマネジメント実践の意義を、全職員に浸透させるよう推進し、事故データやヒヤリハット報告の解析結果を実践に活かした。

見守り支援システム等の活用等にて、予見に基づくケアを展開した。

(6) 教養娯楽

余暇活動の必要性を重んじ、ユニットごとや全体での催し等を計画、実行した。

含めて、個別の余暇活動の支援も重んじて支援した。

地域社会とのふれあいを大切にするため、外出の機会を定期的に設けた。

トータルヘルスケア支援機器を活用し、利用者の認知機能改善や健康寿命延伸をはじめ、顧客満足度の向上等につなげた。

(7) 身体,精神ケア

① 食事,水分摂取等に関するケア

管理栄養士と連絡調整し、利用者にとって食べやすい工夫をし、必要に応じて自助具などの活用を行った。また、利用者より希望があれば疾患の有無関わらず、出来るだけ希望に沿える対応をした。

水分も個々の好みや必要量や必要量を把握し、脱水に気を配りながら提供するよう努めた。

② 排泄に関するケア

利用開始後の排泄パターンの把握と尿量測定の上、排泄アイテムを選定し、個々の利用者に合わせた排泄ケアに努めた。

排泄支援をまわりに意識させないよう、排泄ケア時はトートバッグ等の使用にて訪室対応するなど、尊厳を意識したケアを実践した。

シャワーボトルやホットタオルを使用し、陰部,臀部の皮膚疾患予防,改善に努めた。

③ 入浴,清拭等に関するケア

入浴準備,誘導から入浴終了,居室誘導までの一連の対応は、マンツーマンで行うことを基本とし、個々の身体状況や好みに合わせた入浴対応を実践した。

清潔保持と爽快感(気分転換)を味わってもらうよう努めた。

入浴が出来ない時(体調不良等)は、清拭,着替えを行うことで清潔保持に努め、実施後は保温に努めた。

④ 洗面,口腔清潔,整容,更衣に関するケア

衛生面に十分留意し、個々のニーズに沿ったケアを行った。

清潔保持に心がけ、下着,靴下の交換、身だしなみを整え、気候に応じた衣類の調節等に努めた。

⑤ 基本動作介助

個々の意志を尊重し、現存機能を活かした介助に努め、福祉用具使用上の工夫に努めた。

⑥ 健康に関するケア

個々のバイタルサインの把握と介護士間および看護師との連絡調整を密にし、体調管理に努めた。

また、快適に過ごせるような室内温湿度に配慮した。

⑦ 心理,社会面等に関するケア

個人を尊重した生活の援助,行動障害の緩和、身体拘束軽減等の取り組みに重点を置いた。

ゆったり過ごしてもらえる心身のケアをし、趣味や個々の持っている現存機能を引き出す援助を展開した。

(8) 医療,看護ケア

利用者の実態を的確に把握し、嘱託医師と常に連絡をとり、疾病の発生,悪化予防に努めた。

コロナウィルス、インフルエンザ、ノロウィルス等の感染症等について、発生予防に努めると共に、マニュアルの遵守及び都度のバージョンアップに努め、蔓延予防に留意した。

口腔ケアの徹底により、肺炎予防と口腔内の清潔保持に努めた。

介護士と協力し、排泄の自立を促がし、陰部、臀部の皮膚疾患予防に努めた。

利用者、家族の意向を早期に確認の上、希望がある場合にはそれに沿い、看取りについての取り組みを可能な範囲で実践した。その為に、看取りの基本定義を全職員で今一度共有し、利用者が安心して最期を迎える事が出来る体制を整えた。

家族には家族として出来る事は十分行えたと受け止めてもらえる様、サポート及びグリーフケアに努めた。都度の看取り対応の振り返りを行い、学びや職員の苦悩などを共有し、以後の看取り対応に活かした。

(9) 機能訓練

各入居者、家族の意向に沿った機能訓練計画を作成し、廃用性の機能低下予防のため離床に心がけ、現存機能の維持、向上に努めた。生活の中での機能訓練を常に意識し、介護、看護協同のもとに展開した。また、メリハリのきいた生活リズムの確立に努めた。

日常生活の中での余暇活動を活かし、楽しんで機能訓練ができるよう支援した。

(10) 栄養

栄養については、栄養ケアマネジメントを通して、各部署と連携を図り、個々の利用者の状態把握をし、適切な形態の食事から栄養をとる事ができる様に努めた。

また、季節や産地を活かし、利用者に喜ばれ楽しむ事ができる献立作りに努めた。何より、利用者が満足して食事を摂ることかできることを最優先した。

衛生面に留意し、食中毒等の発生予防策を講じた。

(11) 職員研修

施設内、施設外研修を通じて、職員の資質向上を図り、利用者の立場にたったサービス提供が行えるような体制作りに努めた。キャリアパス制度のもと、職域における目標を明確化した。その上で仕事に対するスキルを効率よく高められるようにした。

定期研修を実施し、職員の意識統一とモチベーションアップにつなげ、資質向上を目指した。

排泄ケアや各種感染症等の勉強会をリモート及び外部講師等を招くなどし行うことで、全体のスキルアップを目指した。

(12) 地域交流

ふれあいホールの開放や、研修室の貸し出し、同一敷地内の盲導犬関連施設の活用、他、夏祭り等の行事を通じて、地域住民との交流を図り、開かれた施設作りに努めた。

(13) 各介護保険関係機関との連携

居宅介護支援事業所をはじめ、各居宅、施設サービス機関との連携を密にし、よりよいサービス提供ができるよう努めると共に、安定運営を常に意識した。

(14) 介護機器及び介護ロボット等の有効活用

個々の利用者の心身状態にあった機器選定に努め、効果的なケアの展開を行う。補助金の活用等を推進し、利用者の生活の質の向上と、職員の職場環境のさらなる向上に努めた。

10. 年間行事

- 4月 花見（ドッグカフェに花見）
- 5月 端午の節句（足湯、菖蒲湯を楽しんだ）
- 6月 サーブの日（ビエン（施設犬）とふれあいをした）
- 7月 七夕（短冊を飾った）
- 8月 納涼祭（入居者のみ参加、露店を出店した）
- 9月 敬老会（行事食を提供し長寿を祝う）
- 10月 運動会（気持ちよく体を動かしリフレッシュ）
- 11月 焼き芋会（山の紅葉を見ながら焼き芋を楽しんだ）
- 12月 クリスマス会（飾り付けをし、手作りおやつを楽しんだ）
- 1月 お正月（書き初め）
- 2月 節分（鬼を退治して一年の健康を願う）
- 3月 ひな祭り（ひな人形を飾り華やかな春を満喫）

【入居状況】

月	入居者数		退居者数 (看取り)	入院者数	在籍者数	稼働率
	男性	女性				
4	5	4	2(1)	10	79	74.7%
5	3	2	4(2)	6	80	79.5%
6	3	2	3(1)	8	82	81.5%
7	0	4	4	12	82	82.0%
8	1	1	3(1)	7	81	80.9%
9	2	4	2	5	85	82.7%
10	1	3	3(1)	12	86	86.3%
11	2	2	3(1)	10	87	87.1%
12	0	2	6(2)	8	83	84.4%
1	0	1	2(1)	7	82	82.7%
2	1	2	3(1)	10	82	83.1%
3	0	5	2	11	85	84.8%
年度計	18	32	37(11)	106	85	84.8%

【要介護度別】令和3年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男	3	2	16	4	6	31	3.4
女	2	7	24	17	4	54	3.4
計	5	9	40	21	10	85	3.4

【年齢構成別】令和3年3月31日現在

	男	女	計
59歳以下	0	1	1
60～64歳	0	2	2
65～69歳	2	1	3
70～74歳	5	1	6
75～79歳	2	2	4
80～84歳	3	11	14
85～89歳	8	14	22
90～94歳	8	11	19
95～99歳	3	10	13
100歳以上	0	1	1
計	31	54	85

【市町村別】令和3年3月31日現在

		男	女	計
愛知県	新城市	21	36	57
	豊川市	1	7	8
	豊橋市	1	5	6
	設楽町	4	3	7
	東栄町	1	1	2
	豊根村	0	1	1
	岡崎市	1	0	1
静岡県	浜松市天竜区	1	1	2
岐阜県	山県市	1	0	1
計		31	54	85

【施設内研修】

月	テーマ	対象者
4	倫理・法令遵守について	全職員
5	連絡・報告・相談の重要性について	全職員
6	非常災害について	全職員
7	褥瘡予防とポジショニングについて	全職員
8	事故発生予防またはその再発防止について	全職員
9	感染症の発生の予防及びまん延の防止について	全職員
10	感染症について	全職員
11	高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止について	全職員
12	看取りについて	全職員
1	事故の発生等緊急の対応について	全職員
2	認知症及び認知症ケアについて	全職員
3	身体拘束等の排除のための取組みについて	全職員

【外部講師研修】（研修数 10 / 参加延べ人数 40 名）

月	テーマ	職種	人数
9	感染症予防研修	全職員	10
	排泄研修（オンライン）	介護職員	5
10	排泄研修（オンライン）	介護職員	3
1	移乗介助研修（オンライン）	介護職員	3
2	ユニットイベントの小工夫（オンライン）	介護職員	11
3	エンゼルケア：死後の処置（オンライン）	介護職員	1
	新型コロナクラスター発生施設から学ぶ（オンライン）	介護職員	1
	エンゼルケア：遺体の変化（オンライン）	施設長	1
	エンゼルケア：初期処置の重要性（オンライン）	介護支援専門員	1
	L I F E 活用セミナー（オンライン）	事務所職員	4

以上